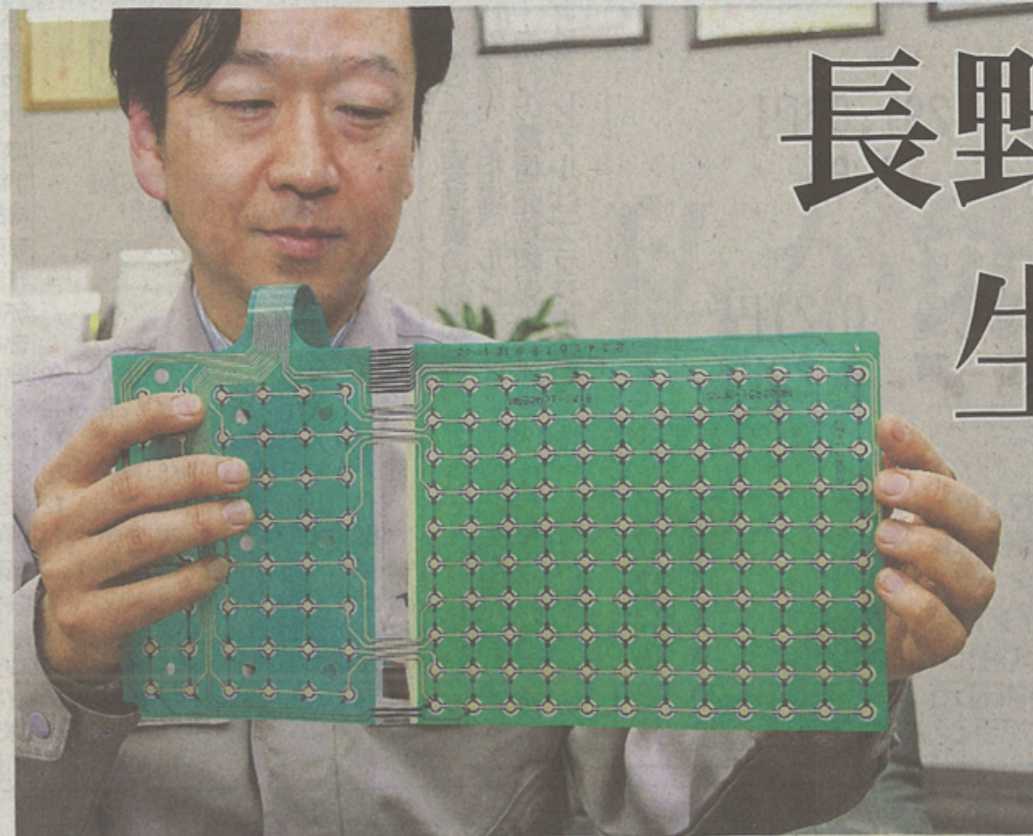


長野テクトロン 生産性向上へ

塩尻の特殊プリンター企業子会社化

■インクジェット化で多品種対応 ■導電回路の印刷研究 環境配慮

電子機器向け入力装置などを製造する長野テクトロン(長野市)の持ち株会社「長野テクトロングループ」(同)は、特殊プリンター製造のマスターマインド(塩尻市)の全株式を取得し、子会社化した。同社の特殊プリンターを活用して製造の効率化を図るほか、インクジェットで導電回路をプリントする技術の共同研究にも着手する。



メンブレンスイッチの導電回路が印刷されたシートを手にする柳沢社長。インクジェットプリンターで印刷できないか研究に着手する



食品に文字や絵柄を印刷するマスターマインドの「フードプリンター」

長野テクトロンは2018年からM&A(企業の合併・買収)を積極的に展開し、23

年9月に持ち株会社の長野テクトロングループを設立。オフィス向けシステムのライブネス(東京)や、高速回転脱水機製造のハヤブサ技研(同)などを傘下に収めており、マスターマインドが6社目となる。買収は23年12月13日付で、株式取得額は非公開。県内企業の子会社化は初めてだ。マスターマインドは1993年設立。布やガラス、金属などの素材に対応した特殊プリンターを製造しており、05年に文字や絵柄を食品に印刷できる「フードプリンター」を発売した。全国の洋菓子店やホテルなどから引き合いがあり、小型のフードプリンターで国内シェアトップ。23年8月期の売上高は約6億円で、従業員は約30人。

長野テクトロンは、薄いシート状の「メンブレンスイッチ」が主力製品の1つで、駐車場の精算機や業務用リフトなどの操作パネルに広く採用されている。スイッチ表面の数字や文字は、スクリーン印刷でプリントしているが、インキの色ごとに版を代える必要があり、コストと手間が課題だった。

今後は、この工程をマスターマインドの特殊プリンターに切り替える。版が不要になり、少量多品種製造に対応しやすくなる。さらに、銀や炭素を配合した特殊インキをスクリーン印刷して形成している導電回路も、インクジェット方式にできないか研究する。生産性向上や環境負荷低減が図れるといい、数年後をめどにした実用化を探る。

マスターマインドの子会社化で、グループ全体の従業員は約140人となり、24年1月期の売上高は計27億円を見込む。長野テクトロングループの柳沢由英社長は、傘下各社の販路活用や技術協力によって「3年以内にグループの売上高40億円を目指す」と説明。引き続きマスターマインドを率いる小沢啓祐社長は「事業活動の幅もチャンスも広がる」と期待を話した。